

段 連玉

DUAN Lianyu



ユートピア

紙本着彩、岩絵具

ユートピア

制作のインスピレーションは、作家自身の内面から生まれてくる。私自身は繊細な人間で、他人とうまくやっていく過程で他人の機嫌や意見を気にしすぎる。そのせいで自分の気持ちをないがしろにしてしまうことが多く疲れてしまう。だから私は孤独を愛する。そこで、私は自身の制作を通して「ユートピア」を表現することにした。自分が安心できる場所を持つことが、私の気持ちを安定させると考えたからだ。

《ユートピア》は私にとって居心地さえよければ何をしてもいい場所だ。まず、他人と「理想の私」を隔てるために私の好きな家具を配置している。次に、絵の中の主人公である「理想の私」は、自分のために作った「ユートピア」で、お気に入りの人形を抱いて自由に横たわっている。ここでは、私の心は、自分が抱えているすべての悩みから解放される。この作品では私のように、孤独を愛するといった同じ思いを持つ人の心にも安らぎを与えたいという願いを込めている。

しかし、絵の中で私が創り上げた世界観は、フィクションであり現実にはありえない。それが私を悲しくさせることに気づく時、「ユートピア」には、現実と空想の乖離から感じるネガティブな雰囲気漂う。

ファンタジーの世界は美しいと感じるが、それは空中の城のようなもので、快樂と安らぎのひとつきに過ぎない。だから、私は自戒を込めて鏡に映る後ろ姿を背景に描きこんだ。これが本当の私であり、彼女の背中を通して、空想に溺れすぎないように警告しているのだ。

そうすることで、「ユートピア」を現実の私を支える力に変えたいのだ。

悲しいことがあったら、充電するために少し逃避し、充電が済んだら、挑戦と成長に応えるために現実に戻ってきなさい。

「ユートピア」を通して私が体現したいのは、私の中にある葛藤、空想と現実の対立だ。

つまり、私は人々に平和を与えるのと同時に警告も与えたいと考えている。